

防災・減災の輪

かがわ自主ぼう連絡協議会
会報 第176号(2021. 11. 1)
事務局 川西地区自主防災会

三豊市 山下市長さんにお話を伺いました

三豊市： 山下市長・続木危機管理課長・下山秘書課長

かがわ自主ぼう連絡協議会： 岩崎会長・関理事

令和3年10月15日 三豊市役所 市長応接

1. 三豊市の概要

三豊市は、香川県の西部に位置し、南部から南東部にかけては讃岐山脈の中蓮寺峰・若狭峰などの山間地があり、北東部は大麻山・弥谷山、西部には七宝山（志保山）などの山々があります。北西部には瀬戸内海に突き出た荘内半島があり、その南側には砂浜の美しい海岸線が続いており、栗島・志々島・蔦島などの島しょ部もみられます。中央部には三豊平野が広がり、東部から西部に向かって財田川、東部から北部に向かって高瀬川などの河川が流れ、豊かな田園地帯を形成しています。

人口 63,481人 世帯数 26,207世帯 (R3. 10. 1 住基数値) 面積 222.70 km²

小学校 19校 中学校 7校 主な産業 農業の主要産品 みかん、ぶどう、もも、オリーブ、マーガレット、三豊なす、鶏卵等 製造業 食料品、窯業、土石製品、鉄鋼、パルプ・紙、業務用冷凍食材、カップ麺の具材等 観光資源 父母ヶ浜の夕日、紫雲出山からの景観



三豊市本庁舎



本庁舎に隣接した危機管理センター
2階の廊下で繋がっております



来庁しやすい雰囲気の本庁舎玄関



玄関左側の恕(おもいやり)の獅子頭



父母ヶ浜の夕日



紫雲出山からの景観

2. 三豊市の防災施設、自主防災組織の状況

三豊市の防災施設としては、平成27年度に「三豊市危機管理センター」を新築し、「災害対策本部室」の常設化による迅速な対策本部の設置を実現するとともに「防災行政無線放送室」を本部室に隣接して整備し、市民へのいち早い情報伝達体制の構築を行いました。また、地域自主防災組織とともに地域防災の要となる消防団の屯所についても「三豊市消防団再編計画」に基づき、施設の耐震化や分団配置の再編により、確実かつ効果的な災害時出動体制の確保を図っています。再編後は、7方面隊36分団の体制で、屯所・車庫61箇所、車両66台の配置となります。

さらに、消防屯所を併設した「防災センター」の整備を各地域で進めており、平時における防災啓発に活用する研修室や災害時の備蓄スペースを設け、消防団との連携による地域防災拠点の整備をおこない、市内全域での防災体制充実のため各地域を単位とした防災体制づくりや拠点施設の整備に取り組んでいます。

次に自主防災組織の現状ですが、令和3年4月におけるカバー率は77.5%であり、決して高い数値であるとはいえません。また、地域によって設立状況に差があります。

地震発生時には、津波被害のみならず家屋倒壊や家具の転倒による被害の発生が市内全域で想定され、避難行動や救出・救助、初期消火といった発災初動期には地域による災害対策がより重要となります。今後も、共助の要となる自主防災組織の設立推進と組織強化について、引き続き取り組んでまいります。



災対本部訓練(危機管理センター内)



避難者受付訓練

3. 山下市長さんインタビュー

平素、かがわ自主ぼう連絡協議会に対する交流連携にお礼を申し上げた後、市長へのインタビューを開始

岩崎会長 政治家なるきっかけをお聞かせ下さい。

山下市長 元々サラリーマンで政治色はあまりなかったです。周囲から多くの推薦いただいて、会社を42歳で辞め、自分で会社を立ち上げました。理由は人に喜んでもらえる仕事がしたいと思ったからです。その後、自分で会社を立ち上げた時に、同級生等から県議会議員を薦められました。正直戸惑いましたが、結局、人に喜んでもらえる仕事の延長線上にあるかなと思って、飛び込みました。市長になる時も全く想定外でしたが、多くの方に喜んでもらえる仕事をしたいと思い取り組みました。



右奥から山下市長さん、続木危機管理課長さん、下山秘書課長さん
左奥から岩崎会長、関理事

岩崎会長 周りの人が良く見て選んだのでしょう、首長さんにふさわしかったからでしょう。

三豊市は面積も広い、僕ら訓練で前の市長さんに毎週三豊に来ておるな、広い範囲ですから海岸線から財田の方まで、毎週訓練に呼ばれて行って居たら、市長さんが挨拶に来ており、あれ今週も来ておるのですかと言われました。県内を廻っておりますと、三豊はどっしりしております浮ついた所が無い、訓練会場の雰囲気を見たらわかります、三豊の方はドーンとしております、開会の前に集まっておっても私語が少ない、いつでもスタートが切れる体制で居り素晴らしいです。

山下市長 真面目でしょう。凄く真面目だと思います。

岩崎会長 県共同募金の方から見ておりますと、一世帯当たりで見ますと三豊がダントツです、滅茶苦茶に強い一世帯当たりの募金額が他市町のほぼ倍以上になっております、高松市の3倍位出ております、よく僕は丸亀に激を飛ばす、丸亀は人口が多くても総額が三豊に越される、自治会の加入率も丸亀は下って行っておりいずれかは三豊に越されると言っております。

連自治会も預かっており、自治会の加入率も気になります、丸亀市の商工会議所の会頭、高浜様は三豊市の出身で今回共同募金会の会長になりました、雑談で自治会の話ばかりされる、何で丸亀市は自治会加入率が下がるのか三豊市はと言出し自慢されております。



山下市長 三豊市も加入率が下がっており、時代の影響もあるのではないかと感じます。丸亀市の人口は11万人であり、都市化は進んでいきますよね。

岩崎会長 市長さんとして、三豊市をどう言う町に行きたいですか。

山下市長 三豊市は七つの町が合併しました。これまで皆さんが住んでいた地域には、それぞれの歴史や文化がありますが、それを取り払って一つの街になるという

ことは基本的には難しいですが、何かあった時に一つになれるという街が重要であると思っています。そのためには皆さんが自分たちの街に誇りが持てる事が重要です。皆さんに「住んで良かった」「他の街よりうちの方がええなあ」と思っていたら、それだけで人は出て行きません。人口が減少している世代の人たちは自分の中に誇りみたいなものがあり、街に住んでいる事の誇りを持ってもらうことはなかなか難しいですが、気持ちに余裕を持って、何事でもやってみようかなと思える街をめざしたいと思います。そのためにも皆さん一人ひとりが豊かさを感じ、若い人だけでなく皆さんがチャレンジできる街づくりに取り組んでいます。

岩崎会長 私共、訓練で25～30人位で女性が8人位入っており、ある三豊の小学校で訓練をして終わらせ車の中で話聞いておられますと、全然、丸亀の小学校と違うよね、お父さんお母さんが違う、まず良くご挨拶してくれる、ありがとうと言ってくれる、丸亀で訓練しても、ありがとうと言ってくれた事が無い、どこの小学校でもこんなに違う、親のしつけかな、地域の風土かな、本当ですよ。だから僕は、丸亀の市長さんや市議会議長さんにそれを言うのです、生の話をするので腹を立てないで聴いてほしいと言うのです。

山下市長 それも日々の生活の積み重ねだと思います。「明日からやれ」と言ってもできるものではありません。それに地域の風土があるのだと思います。

岩崎会長 最近、新山本小学校とか財田小学校で訓練終わる頃、いい香りがして来ました、焼きいもしてくれておりました、地元のじいちゃん、ばあちゃんが来て、今日は孫が訓練しておりお父さんお母さんが来ており、ドラム缶で焼きいも作って帰りに皆様に3個位お土産に頂く、あれは良いですよ。帰りに暖かみがある焼きいもをお疲れ様と言って皆で食べました。家で作っているサツマイモを持ち寄り、また小学校でも子供さんが作っているサツマイモを出してくれたりもしました。

続木危機管理課長 開校以来、毎年山本小学校や財田小学校での防災訓練の指導に来て頂いております。

山下市長 ありがとうございます。川西地区の自主防災は、私たちの中ではずば抜けており、お手本にさせていただいています。

岩崎会長 僕は、街づくりの機関車役に防災活動を入れたのが良かったのかなあと思っております。

山下市長 香川県は災害が少ない街です。3年前の西日本豪雨の時に、財田川が決壊するかもしれないという状況になり、約9千世帯に避難指示を出しました。しかしながら、避難所に避難した人は1割にもいきませんでした。消防団とも連携し、

広報車で走ったり、防災無線で避難を呼びかけたりしましたが、「家は大丈夫だろう。」「今まで大丈夫だったから、避難は必要ない。」と思う人が大勢でした。その後、市内各地域の高齢者大学で講演依頼を受け、講演に行くたびに避難を呼びかけたり、防災グッズの準備をお願いしたりしています。

岩崎会長 倉敷市真備町へ応援に行った時に、最初警察から OK が出てすぐに行った所が真備支所のすぐ隣位の町、防災訓練やそんなもの何もした事が無い、行政から来た資料を配っただけで何もやって無かった、案の定小さな自治会ですが 2 人か 3 人が亡くなった、次に行った所がもっと大きい自治会で川も近いし逃げる場所も僕ら見た所無いのですが、自治会役員が皆を引っ張って避難したので亡くなった人けがをした人もいないし、いかに常に訓練をしているかの違いがもろに分かりました。

山下市長 近隣地域で地震が発生するたびに、日頃から訓練しなければならないなと感じます。

岩崎会長 防災活動は地味でしょう。如何に楽しくするかが大事なことです、僕は今の知事さんに申し上げたのですが、輝いておる女性を地味な団体に入って頂くことが長く続く大切な要素ではないかと思います。

山下市長 川西地区では、年何回ぐらい訓練を実施していますか。

岩崎会長 今コロナですが、無かったら 50 回はやっております、県内各所で実施しておりますので。

山下市長 一週間に一回くらいになりますね。それはすごいですね。

岩崎会長 一番きつかったのが、午前中仁尾小学校で訓練して、昼から山本小学校で訓練して、夕方から高松木太町のある福祉団体で夜の訓練で 3 つ、朝 7 時から出て、夜帰って来たら 10 時前になった、最後は炊き出しを頼まれておったので女性を連れて行っておりました、よう旦那さん文句を言わずに一日中出してくれました、朝 7 時頃から夜の 10 時前頃まで、さすがに女性の方は帰りに僕が運転しておりましたら、物言わなくなり皆さんが寝てしまっておりました。これが一番の思い出に残っております。5 年位前の話です。

続木危機管理課長 以前にも、家具の転倒防止対策訓練で川西の方が軽トラックに家具を乗せて参加してくれました。これも凄い行動力と言うか、機動力が今でも、強い印象に残っております。

岩崎会長 それを作ってくれと言われた元は、仁尾小学校の校長先生でした、市長さんと同じ同姓で、退職してから昨年まで三豊市教育委員会に居られました、熱心な校長先生でこんな物を作ってくれないかと、簡単なスケッチを描いて頼まれました、新山本小学校の初代校長だったですね、上高野で知り合い上高野自主防災会会長さんとの知り合いで、校長先生と初めて知り合いになりました。

陸前高田で炊き出しの準備しておりますと、電話がかかって来て山下です言われ仁尾小学校に転勤してきております仁尾小学校で訓練してくれませんかと話がありました、陸前高田に居るのでと言うと驚かれました、5月の始めでした。それ以来ずっと山下校長先生が行く先々の学校で訓練をしております。お酒も好きです、上高野や比地大も含めた地域の小学校の先生皆さん入って、手料理の持ち回りで一杯やっておりました、こういう交流も大事です。

山下市長 これからもぜひお願いします。

続木危機管理課長 組織数は350程ですね、どうしても地域差があります、沿岸部とか豊中町とかは関理事の所もそうですが早くから立ち上げて頂き、只、山間部がちょっと弱いかなと言うのが実情です。

関理事 川西さんに指導して貰って、余りにも川西さんが熱心過ぎて皆傍観しているだけでした、それではいかんだろう、と自主防災会の役員さん何を覚えたのかローテーション組んで皆そばで見ているだけではダメ、川西さんに悪いけれど自主的に我々でやらしてくれと言うのがここ2~3年位前からです。それまでは全部川西さんに、おんぶにだっこでした。自分たちでやり方を覚えんか、人の話みたいにして聞いておるだけではなんぼ組織立ち上げててもダメでしょう、と言う事でやり方を変えました。先程、言われたタンスを持ち込んでどうのこうと大掛かりな事はとても我々では出来ませんがね。本当にあれは工具から何から全部揃えになられておるし、それは天下一品と言うか有りとあらゆる経験をなさって居るし、災害地に行って実際に経験されておりますから、我々との感覚度合いが違いますね。いざと成った時の事を良くご存じですし、そう言う危機意識と言うかその辺が川西さんは素晴らしいと思います。

山下市長 実践力は強いですね。座学だけでは無理でしょう。

続木危機管理課長 いろいろな場面できっかけ作りが大事です、なかなか自主防でも自分たちで自発的に何かをやろうとすると、ノウハウが無い、知識が無い、怖くて出来ない。それを川西さんに来て指導して頂いて、関さんがおっしゃるように将来的には、自立型の訓練とか研修が出来たら良いと思います。

岩崎会長 災害ボランティアで去年、九州へ行くように用意しておりましたが、電

話をしたらじんわりと断られ、お気持ちだけで県外からはお断りしておりますからと言われました。

続木危機管理課長 県を跨いだボランティアは難しい、やっぱり外からの力が無かったら、地域だけでは皆被災しておりますから、難しいところですね。

岩崎会長 ひどかったのは熊本ですね、地域が全然動いてなかった。10日間入りましたが地域の自主防や自治会は一人も出て来なかった、学校の先生と全国の自治体の応援だけでした。学校の先生はえらい目しておりました。8時間3輪番組んで24時間ずうっと避難所の面倒見ておりました。早く地域の皆様が応援してあげたら、学校の先生が楽になるのに、全然資器材と言うのか紙食器類もほとんど持ってありませんでした。体調を壊されても仕方無いですね。捨てたら無くなるので朝食べたどんぶりを再度また同じ物を使う、危ないです。

では、お時間も来たようですので本日はこれにて終了したいと思います。これからも色々とお世話になります、どうぞ宜しくお願い致します。

山下市長 こちらこそ、ありがとうございました。

三豊市 HP より



栗島 元海員養成学校



お茶畑

今月は事務局を担当している川西地区の近況を紹介したいと思います。

地元行事とパネル展示

この時期、「秋祭り」や「防災訓練」などで、はげしく動き回っているところですが、コロナ禍にあって、通常の活動が止まっています。来年以降の活動を考えると、すべて休ませると、立上りのエネルギーは大変だと思い、多少のリスクも考慮しつつ、秋祭りも写真のごとく、浦安の舞と獅子舞の奉納を行ないました。



防災訓練減少によって、会員の活力減少につながることもふまえ、運よく川西地区自主防災会の活動開始から丸20年となり、活動の節目となる「あゆみ」を大きくパネル化（1520×1000）し、香川県内を展示して回っております。

この度は大型商業施設をメインに巡回していますが、大きな施設では搬入口から展示会場までが100メートルを超えており、店内ということもあって、手作業の連続で体力的に厳しいものがあります。店内での展示状況を写真で紹介します。



編集後記

11月の防災減災の輪は、2ヶ月前から三豊市の山下市長さんをお願いしておりました。10月15日午前中、お時間をいただき、さわやかな笑顔で対応されて、約1時間がとても短かく感じました。インタビューありがとうございました。